

「ヒヤリ・ハット」事例の募集について

事故の教訓

「1件の重大災害が発生する背景に、
29件の軽傷事故と300件のヒヤリ・ハットがある。」

—ハインリッヒの法則—

「ヒヤリ・ハット」とは、例えば

- ・ガスボンベが倒れ足に当たりそうになった。
 - ・ロッカーからダンボールが落ちて頭に当たりそうになった。
 - ・構内道路を横断中に駐車場から出てくる車にひかれそうになった。
 - ・書類の廃棄作業中に、ひもをライターで焼き切ろうとしたら紙に燃え移りそうになった。
- などの「あわや事故になりかねない」事故寸前の危険な状況です。

学内で「ヒヤリ・ハット」に遭ったとき

下記URLにアクセスして、その内容をお知らせ下さい。

学内に注意を促したり、設備等を改善したりします。

なお、研究室に所属している学生は、指導教員に報告して下さい。

ヒヤリ・ハット事例の募集について（ヒヤリ・ハット事例の募集・報告様式）
https://www.nagaokaut.ac.jp/gakunai/designated/jinji_romu/HIYARI/hiyarihat.html

ヒヤリ・ハット体験（ヒヤリ・ハット事例トップページ）
https://www.nagaokaut.ac.jp/gakunai/designated/jinji_romu/HIYARI/top.html

ヒヤリ・ハット 記載例 （上記URLで事例を紹介しています。）

事例1	流しに捨ててはいけない薬品類を誤って流してしまった
どこで	実験室
どうしていた時	蛋白質発現解析の実験中
あらまし	流しに捨ててはいけない薬品類（タンパク質の染色液）を不注意で捨ててしまい、あわててペーパータオルで拭き取り、乾燥後、可燃物として廃棄した
原因	流してはいけないことを忘れていた
対策	指導教員による再発防止指導を徹底するとともに、注意を促す掲示に努める